

平成29年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	任意団体 Cocoro Care for Children	職名	代表	助成金額	30万円	
氏名	出口貴美子		印			
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）						
福島県飯館村でのこどものこころのケア活動						
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）						
<p>【事業の概要】</p> <p>福島県飯館村との協力体制のもと、発達障害などの環境脆弱性を持つが故に避難生活や園・学校などで困難に直面しやすい子ども達やその保護者を支援することを目的に、村立幼稚園での発達スクリーニングなどの活動や、子どもたちと親のこころのケア活動を継続的に実施し、村の子ども達の健全な成長の見守りをする中で、東日本大震災の被災地の子ども達の明るい未来をサポートするための事業をおこなう。</p> <p>【実施した事業】</p> <p>1) 村立幼稚園、こども園への支援</p> <p>発達スクリーニングを幼稚園教諭、保護者への自記式調査票により実施し、その結果に基づき、児童の発達に関する小児神経科医による診察の実施、園での様子、保護者の関わりなどの情報をもとに、診断、治療や療育の必要性、園での対応やフォローの方針を決めた。必要に応じて保護者との面談も実施した。平成29年4月17日、7月18日、9月19日、12月4日、平成30年3月1日、4月1日、6月11日に訪問。発達スクリーニングを実施し、29年度の新入生6名のうち、3名について継続的フォロー対象とした。昨年度からの継続フォロー対象者3名と合わせ、子どもたちが素因として持ち合わせている知的および発達障害を踏まえた今後の継続的にフォローを行ない、園児のメンタル面でのサポートを行なう。平成30年度からこども園での乳幼児のサポートを開始し、これに合わせて手作り布おもちゃをグループもここの支援により作成し、これを用いたこころのケアの実施指導を行なった。</p> <p>2) 村立小中学校への支援</p> <p>対応困難事例について、教諭やSSW、SCなどと個別ケース相談を実施。生徒・保護者と面談し、専門的見地から問題を探り、必要に応じて県立医大など専門機関への紹介、継続的なフォローにより問題解決を図った。小学校では幼稚園の訪問と同日に計6回訪問した。3名の生徒（ASD不穏、遺尿）に関して、相談を実施した。本人および保護者の面接を実施。うち2例を専門機関へ紹介し、治療開始。継続的に面接フォローを実施。中学校：相談2回、訪問1回を実施した。1名の生徒（知的障害+心因反応）に関して相談をうけた。本人および保護者の面接を実施し、担当教諭らと情報を共有した。</p> <p>なお、平成30年度から村外にあった仮設の幼稚園および小中学校が帰村したため、これに合わせて対応を行なった。</p>						
助成金の使用金額及び使途						
助成金は、主に訪問時の旅費（2名：東京⇄福島、1名：長崎⇄福島）として使用した。不足分は自己調達、あるいは福島県立医大より環境省研究費への研究協力者としての支出金から賄った。また平成30年4月から幼稚園がこども園として1歳時からの預かりを行なうこととなったため、手作り布おもちゃの作成のための材料費購入に使用した。作成は「ぐるーぷもこもこ」が好意により担当した。【下記支出纏め】						
平成年	月	日	収入額	支出額	残額	その内容
29	7	7	300,000		300,000	財団せせらぎ様より助成金入金
	7	31		50,000	250,000	ぐるーぷ・もこもこ 布おもちゃ材料費支払い（こども園寄贈）
30	4	1		162,700	87,300	出口・井上・佐藤 帰村に伴う小中学校開校式出席旅費交通費
	6	11		80,031	7,269	出口・井上・佐藤 移転後の幼稚園、小中学校視察旅費交通費
計			300,000	292,731	7,269	全活動日当48,000円辞退。6.11 出口航空運賃、宿泊費辞退。

助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）

活動成果の一部を第 77 回日本公衆衛生学会（2018 年 10 月 24～26 日、郡山市）にて発表予定。